

本日は平和聖日。私たちは戦争や紛争の歴史、そして日々の暮らしの中にある争いの心を覚えます。聖書が語る平和「シャローム」とは、単なる休戦やごまかしの平和ではなく、神さまの光のもとで一人ひとりがかけがえのない存在として大切にされる状態です。

イエスさまは山上の説教で「**敵を愛し、迫害する者のために祈りなさい**」と命じられました。人間社会は長きにわたって「やられたらやり返す」という報復の連鎖で形作られてきましたが、ここでいう“愛”とは感傷的なものではありません。相手の理不尽な暴力や悪意によって自分がコントロールされ、同じ土俵で憎しみに染まることを拒む、“**愛の主導権を自分の手でしっかりと握り直す**”という、極めて積極的で力強い生き方です。

その究極の姿が、他ならぬイエス・キリストの十字架でした。主は自分を十字架に架けた人々に対してやり返すことを徹底して拒まれ、「私はあなたたちの憎しみによって自分の愛を汚させない」と、すべての悪意をご自身の十字架の愛で丸ごと飲み込み、報復の連鎖を断ち切られました。十字架とは、神のシャロームをこの世界に生み出すための究極の愛の業でした。

学校や職場、日々の生活の中で、理不尽な扱いを受けたり傷つけられたりしたとき、私たちはつい「言い返してやりたい」という誘惑に駆られます。しかしキリスト教の信仰は、やられたらやり返す生き方を否定します。十字架の主イエスが示されたように、神さまにしっかりと守られている私たちは、相手の悪意に心を支配される必要から解放されているのです。私たちが今日迎えた平和聖日は、**主イエスが十字架において示してくださったこの「愛の主導権」に生きる道を、再び私たちの日常に刻み込む日**です。大人も子どもも共に、神さまが約束してくださっているシャロームの光に満たされ、それぞれの場所で報復の連鎖を断ち切り、愛をもって平和を創り出す者として歩んでまいりましょう。